

特集 | 日本からの情報発信

—東南アジア・中南米での教育研究拠点づくり—



CONTENTS

- 2 NEWS / トピックス
- 4 特集 - 日本からの情報発信 -
- 8 ながおかニューライフ
- 10 私の抱負
- 12 課外活動
- 13 就職コーナー
- 14 学生表彰
- 15 学生生活実態調査 / AED
- 16 お知らせ / 編集後記

NEWS

『留学生と学長との懇談会』を開催

5月18日(水), 第3食堂において「留学生と学長との懇談会」が行われました。

この懇談会は、昨年10月4日に開催された日本人学生との懇談会に続くもので、留学生から勉学や日常生活等について、悩みや要望等を聞き、今後の留学生支援の充実を図るために開催したものです。

懇談会は、11ヶ国、15名の留学生の出席のもと、西澤理事、丸山理事、石崎副学長も加わり、終始和やかな雰囲気で行われました。授業内容、課外活動、日常生活等々における感想、質問、要望が出され、活発な話し合いが行われました。

特に日本人学生との交流の場を大学として設けて欲しいとの要望については、学長から、交流会の実施を検討することが約束されました。今後もこの懇談会は引き続き開催していく予定です。



Topics トピックス

平成17年度(第26回)実務訓練シンポジウム - 平成17年6月1日 -

実務訓練は、本学創設の趣旨である「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」に資する教育プログラムの目玉として考案され、開学以来26年にわたり実施されてきています。それは学部・大学院一貫教育の中の重要な科目と位置づけられており、その果たすべき役割は大きいです。幸い、実務訓練は学内外から高い評価を得ており、近年他の大学や高専においても、本学の実務訓練を手本として長期インターンシップが計画され、また実施され始めています。しかし、26年前と比べると、国立大学の法人化、少子化、長引く不況など、社会状況も大きく変化しており、本学の実務訓練も、内容の更なる充実を図る一方で、時代に対応すべく修正・見直しを行っていく必要があります。

今回のシンポジウムは、現行の実務訓練をあらゆる角度から総点検して、先導的・実践的教育プログラムとして再評価すると共に、実務訓練が更に充実したものとなるよう、その進むべき方向を明らかにすることを目的として開催されました。

- 基調講演 『産業界から見たインターンシップ改革の必要性』
味の素株式会社技術特別顧問 山野井 昭雄
特別講演 『豊田工業大学「学外実習」の自己点検と新たな出発』
豊田工業大学 工学部 教授 恒川 好樹



実務訓練シンポジウムの様子

「国立大学法人長岡技術科学大学東京事務所」を設置

このたび、本学の東京事務所を東京新橋に設置しました。
スペース的にはあまり広くはありませんが、当該場所に事務所を構えたことで、今後、更なる本学の発展が期待されます。設置の概要は下記のとおりです。

1 設置目的：

本学からの企業等へのPR活動、競争的資金等の情報
 収集、産学連携の拠点形成等の研究活動の一層の推進を
 目的としています。

2 設置場所：

〒105-0003 東京都港区西新橋1-5-11 第11東洋海事ビル6階
財団法人金属系材料研究開発センター(JRCM)内
電話番号 : 03 - 3503 - 5091 (FAX兼)
m e i l : ntic.tyo@ac.wakwak.com



最寄駅		徒歩
JR	新橋駅より	6分
銀座線	虎ノ門駅より	3分
千代田線	霞ヶ関駅より	4分
都営三田線	内幸町駅より	2分

3 設置形態：

J R C M内のオフィスの一角に、パンフレット類の展示ラック、机、パソコン、プリンター、電話・FAXを設置し、専用スペースとして使用するものです。また、共用施設として、会議室や打合せスペースの使用が可能です。

4 役 割：

産学連携の活動拠点（共同研究の打ち合わせ等）
情報収集（文部科学省、経済産業省等の競争的資金に関する情報等）
教職員への事務サービス機能の提供（出張の待合せ・打ち合わせ場所の提供、コピー、FAX、PC等利用等の事務サービス）
PR（パンフレット類の展示）
その他連絡窓口



看板を上掲する小島学長(写真中央)



事務所スペース

良いものを更に良くするために

実務訓練委員会委員長
渡 邊 和 忠(生物系教授)

本学の実務訓練が将来においても常に時代を牽引するシステムであり続けるように、今年度のシンポジウムでは実務訓練を更に良くするための課題と提言を講演者の方々から頂きました。基調講演，特別講演，報告の方々の講演で基本的に一致していた点は，フロントランナー型人材，問題提起型技術者の養成が必要ということでした。そのためには専門知識だけでなく幅広い視野，知識，基礎学力，異分野を取り込む能力，コミュニケーション，プレゼンテーション能力などを身につける必要があることが強調されていました。これらの知識や能力については，学生は既にも実務訓練を通して自ら不足していることを自覚する一方，社会的視野が広がったことなどを実感していることが，学生へのアンケートから明らかになっています。これは大学院進学後の研鑽への強い動機づけとなっており，実務訓練の有効性を再確認することができました。しかし，一方，学生が訓練後，在学中にその効果が薄れる場合があり，効果を維持・増強するための仕組みの必要性が指摘されました。

派遣先については、本来の目的に合うか、指導は適切であるかなど分析・評価するとともに、派遣先に訓練の目的を明確に伝えること、指導・要望などを十分に提示することの重要性が挙げられました。また、実務訓練の目的の明確化、有効性についての客観的評価や、近年の学生の資質・能力、学

習履歴などの多様化が進む中、派遣時期や期間についての柔軟な対応が必要との意見も出されました。

今後、これらの意見も含めて十分な議論をして、より良いものにする努力が必要です。また、今回のシンポジウムでは、社会がどのような人材を望んでいるか学生諸君に明確に伝えられたと言う意味でも大きな収穫があったように思います。

平成16年度 実務訓練実施状況

※実習訓練機関と派遣学生数									
受入機関・派遣先	機関数	機械系	電気系	化学系	環境建設系	生物系	経営情報系	合計	
大学・公団等	19				19			29	
企業	7		1	11	10			12	
食料工業	7								
繊維工業	2	2	3	1			6	1	
化学工業	20	2	2	15	2		4	25	
医薬工業	2								
鉄鋼業	2	3	2					5	
非鉄金属工業	10	8	1	4				13	
金属工業	3						1	3	
取組機関等	26	26	3	2				34	
電気機械工業	15	45	6	3	2	4		75	
輸送用機械工業	13	12	2	2	1			18	
精密機械工業	8	2	1					11	
その他製造業	13	3	1	6	2	1		14	
(製造業小計)	(146)	(74)	(58)	(38)	(14)	(18)	(11)	(213)	
運輸・商業	6		19	1				23	
サービス業	27	1		2	21		7	32	
海外企業等	22	16	9	4	4	2	3	38	
合 計	229	91	88	44	71	31	22	347	

◎ 海外への実務訓練生内訳

ロシア	マウ教育財団	7名
ソビエト	日立エレクトロニクス・マシーナ	3名
タイ	日本電産(株) (Nidec Copal Co., Ltd.)	2名
タイ	Toshiba Semiconductor	2名
タイ	Thai Tabuchi Electric Co., Ltd.	1名
タイ	Shin Denso Co., Ltd.	1名
タイ	Hoya Glass Disk Thailand, Ltd.	1名
ベトナム	キャンベトナム	1名
ベトナム	HALベトナム	1名
ベトナム	ハノイ工科大学	1名
シカゴ・ネール	シカゴ・ネール総合病院	1名
中国	鄭州大学	1名
台湾	第三成功大学	1名
韓国	Kaya Kama	1名
韓国	Daewoo Electronic Materials Co., Ltd.	1名
インド	(株)東洋建設事務所ナグー・駐在事務所	1名
インド	ナグー・駐在事務所 科学技術情報	1名
オーストラリア	ニュー・エレクトロニクス	1名
オーストラリア	クワサオ島石油精製所	1名
オランダ	ホルボロ・エレクトロニクス	2名
ペルー	カナル・エレクトロニクス	1名
アメリカ	ランゲージ・システムズ・研究所	1名
計		38名

日本からの情報発信

- 東南アジア・中南米での教育研究拠点づくり -

国際交流担当の石崎副学長に、本学が、今とくに力を入れている国際化の取り組みについて、お話をうかがいました。

聞き手 若 林 敦（語学センター助教授・VOS専門部会長）

——本学では現在、東南アジア・中南米での教育研究拠点づくりが着々と進んでいますね。

ええ。東南アジアでは、ヴィエトナムのハノイ工科大学とのツィニング（連携教育）プログラム第一期生が3人、この4月に学部3年生に編入してきました。これから2年間、実践的・指導的技術者をめざし、本学で専門教育を受けていきます。

——本学独自のこのプログラムは、そのユニークさで各方面から注目されているようですが、

そうです。何よりも、優秀な学生を日本に呼ぶことができ、プログラム修了生は両大学の学位が取れるという点が重要です。学生達は、ハノイで2年半かけて、日本語・英語と専門基礎の教育を受け、そのうえで編入試験に合格した学生だけが日本に留学できます。一方、たとえ不合格でも、そのままハノイで専門教育を受けて学位を取る道が残されていますので、こちらとしても、何の心配もなく厳格に学生を選抜す

ることができるのです。また、編入してきた学生達は将来両大学の学位が持てますから、どちらの国でも十分通用する、まさに両国を股にかけた活躍が期待できます。

当初からヴィエトナムでは政府の積極的支援のもとで推進されてきましたが、最近では日本でも文部科学省が強い関心を示すようになりました。また、両国でプログラム提携大学が増え、相互にコンソーシアム（連合体）を形成しました（ヴィエトナム5大学、日本6大学）。プログラム入学時の学生定員を現在の50名程度から大幅に拡大できる条件が整ってきました。本学も、昨年度、ハノイ工科大学内にハノイ・オフィスを開設しました。今後、より力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

——中南米では、メキシコとの交流が進んできましたね。

メキシコのヌエボレオン州は国内でメキシコシティの次にGDP（国内総生産）の高い地域です。ですから、国内での影響力もある。その州政府の積極的な協力のもとで、昨年11月、本学はこの州の5大学のコンソーシアムと新たに学術交流協定を結びました。このコンソーシアムとも、ツィニングプログラムの実施をめざしています。ほかにグアナフアト大学、ミチョアカナ大学とも交流協定を締結しており、交換留学生の相互受入れや、国際シンポジウムの開催など、教育研究面での交流が進展しています。

——6月1日現在で、本学の交流協定締結大学・機関は20か国47機関、研究室間交流を入れますと21か国50機関にもものぼるという状況です。その3分の2近くが平成



14(2002)年度以後の締結ということで、ここ3年くらいの国際交流の拡大にはめざましいものがありますね。

教育交流は、相互の学生にとって、学業面だけでなく、外国での生活経験自体が計り知れない価値を持ちますし、また、本学の海外実務訓練に協力してもらっている大学もあります。学生が在学中に国際経験を積むチャンスが急速に広がっているわけですね。また、研究交流を通じて相互に研究の活性化をはかる機会も増えています。

——大学がこのように国際交流を進めていくということには教育研究面のほかにも重要な意義があるとお考えのようですが。

日本はもっと世界に情報を発信し、日本の実際の姿を世界の人々に正しく認識してもらうようにしなければなりません。日本で学び日本語を理解する留学生が将来本国へ帰って活躍するようになれば、それだけその国に日本の理解者が増えるということになります。日本からの情報の中継者として、その国の人々が日本のことを知る仲立ちともなってくれるでしょう。

いま日本で学んでいる留学生は11万人、そのうち7万人が中国人ですが、例えばインド人の留学生は500人もいません。こういうアンバランスを放置していたのでは、いつまでたっても日本の理解者が世界中どこにでもいるという状況は作れません。我々が東南アジアや中南米との交流を発展させていくことの意義はそこにもあります。

——日本は、我々が思っているほどにはまだまだで世界で理解されてないということですか。

それが私の実感です。もちろん、国際交流の中では相手から学ぶこともたくさんあります。例えば、私はベトナムとの交流の中で、国の要職にある人々の謙虚さというものを強く実感してきました。事あるごとに、たいした理由もなくおごり浮かれるかと思うと、また逆に、



突然自信をなくすかに見える日本のリーダーたちとは対照的です。何かそこにはその謙虚さを支えるしっかりしたものがある。それはベトナムと日本が歩んできた近現代史の違いに由来するのかもしれませんが。そういう歴史的背景も含めて、東南アジアや中南米の国々には我々の学べき文化が豊かに存在しています。

そのことを踏まえた上で、やはり一方で、これらの国の人々に日本を理解してもらうことも同じように重要です。それが、今後50年、いや20年先に、国どうしが国民のレベルで親しい関係を築くことができているかどうかを左右することになると思うのです。そして、そのような関係こそが、互いに争いのない平和な世界を創り上げていく根本に必要なものなのではないでしょうか。

——なるほど。相手に学びつつ、こちらの社会や文化・歴史も相手にしっかりと理解してもらうということですね。

そうです。大学の国際交流は、国の外交政策や企業の海外進出とはまた違って、大学にふさわしい独自の理念で進められるべきものでしょう。私は、そういう理念のもとで交流を進めていきたいと思っています。

今後も、本学の新しい試みは、時代を先取りするようなものでありたいですね。

(2005.5.13)

ツイニングインタビュー

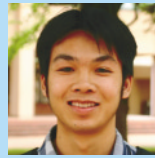
ツイニングプログラムにより入学した3名の学生にインタビューをしました。

——入学して2ヶ月近く経ちましたが、技大（日本）に来てどんな印象を受けましたか



○ギューエン スン ティエン

ベトナムでは月曜日から土曜日まで毎日、午前6:45～17:20まで授業があり、すべて必修だから大変でした。技大では時間に余裕ができたのでその分、日本語の勉強をしています。当初は日本料理が口に合わなかったけど、今は刺身が大好きになりました！



○ドアン バン タン

技大はとても静かな自然環境なので集中して勉強ができます。それと、日本人の学生さんがとても親切に勉強を教えてくれるので、すごく助かります。先生の話は分からないこともありますが、それを友達が説明してくれるとよく理解できるんです。（笑）



○チュン トウ アイン

日本は坂が多いです。特に大学の周りは坂が多くて、自転車で移動する私にとってはすごく大変です。まわりにいる日本人学生が生活、勉強など色々熱心に教えてくれるのでうれしいです。ゴミの分別が大変なんですよ。毎日苦労しています。（笑）

ツイニングプログラム・コンソーシアム大学

日本（6大学）

長岡技術科学大学、群馬大学、東京農工大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、九州大学

ベトナム（5大学）

ハノイ工科大学、ダナン大学、ホーチミン市工科大学、タイグエン工科大学、ニャチャン水産大学

メキシコ ヌエボレオン州のコンソーシアム大学

モンテレイ工科大学、ヌエボレオン大学、モンテレイ大学、レジオンタナ大学、高等教育大学

協定締結大学との取り組み紹介



実務訓練派遣学生支援
IP based TV会議システム

中 川 匡 弘

（電気系 教授 情報処理センター長）

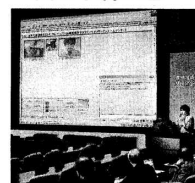
平成15年度から「特色ある大学教育支援プログラム」の公募（文部科学省）が開始された。本学は、「実務訓練（長期実践型実習）と教育効果」という題目で体験型学習の実践例として申請し、開学から四半世紀に亘るこれまでの取り組み実績が認められ採択された。本取り組みの中では、海外実務訓練派遣機関・派遣人数等の拡充、並びに、学术交流協定校との連携強化支援システムの構築を推進している。昨年度までに、IP接続のビデオ会議システムを海外5大学（ハノイ工科大、タマサート大学、マラヤ大学、パトムワン大学、コンケン大学）に設置し、本学との連携強化に供すると共に、海外派遣学生と実務訓練窓口教員間の連絡・連携支援装置として、本学情報処理センターにMeetingPlaza用サーバーを設置し、派遣学生にPCベースのTV会議用PCの貸し出しを行い、学生のメンタルケアを含めたきめ細かな教育

支援に活用している。（新聞記事参照）なお、本取組事業に対しては、平成16年7月に（社）日本工学教育協会第8回工学教育賞、文部科学大臣賞が授与されている。

170119

新 瀧 日 報

海外派遣の学生支える



長岡技科大

連絡円滑に 不安解消

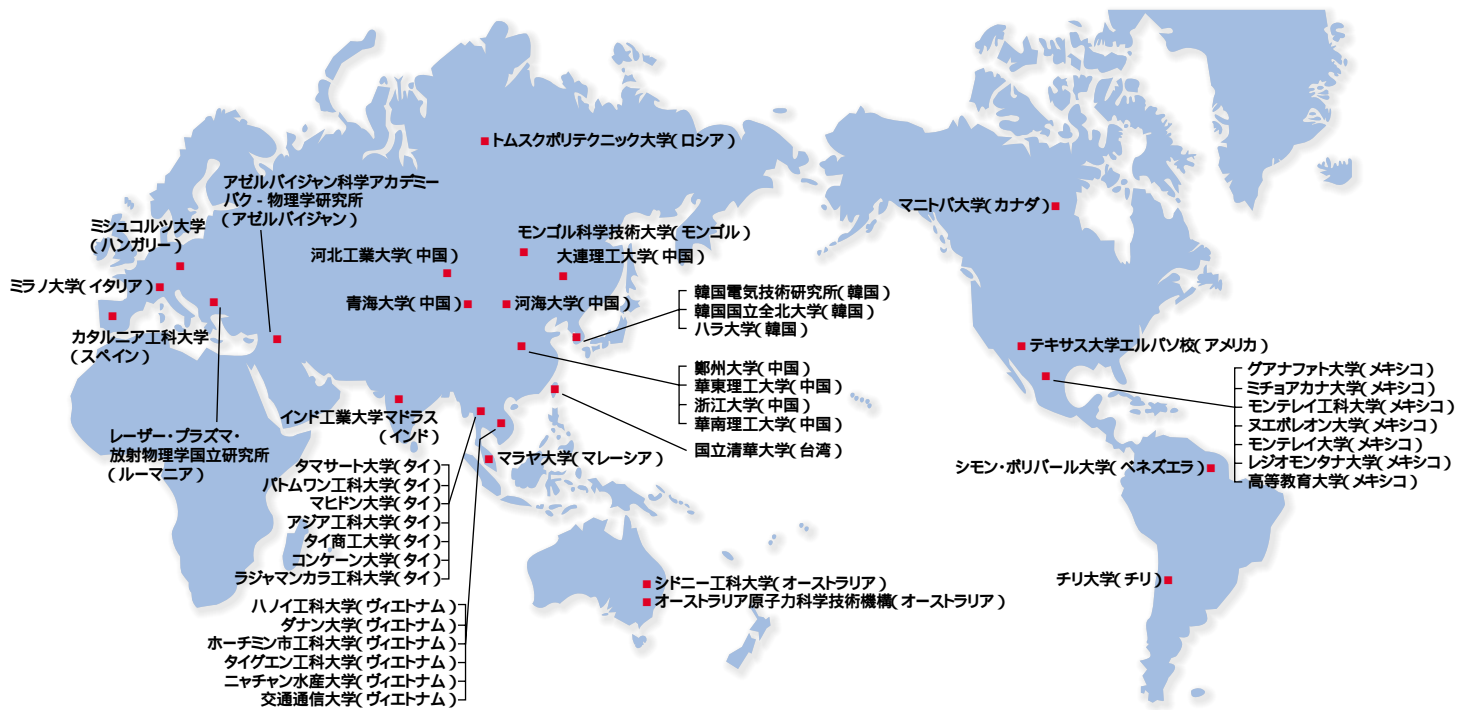
テレビ会議設備導入

本学に学ぶ海外派遣学生は、長岡技術科学大学（長岡）と提携する海外5大学（ハノイ工科大、タマサート大学、マラヤ大学、パトムワン大学、コンケン大学）に設置し、本学との連携強化に供すると共に、海外派遣学生と実務訓練窓口教員間の連絡・連携支援装置として、本学情報処理センターにMeetingPlaza用サーバーを設置し、派遣学生にPCベースのTV会議用PCの貸し出しを行い、学生のメンタルケアを含めたきめ細かな教育支援に活用している。（新聞記事参照）なお、本取組事業に対しては、平成16年7月に（社）日本工学教育協会第8回工学教育賞、文部科学大臣賞が授与されている。

international

協定締結大学・機関

(平成17年6月1日現在:20カ国47機関と締結)



シモン・ボリバル大学との 交流について

高橋 勉
(機械系 助教授)

ベネズエラ共和国、シモン・ボリバル大学との学術交流協定は1995年12月に提結され、現在まで教員・学生の交流を中心に良好な関係を続けてきております。受け入れている留学生はよく勉強するとともに、日本の、特に雪国・長岡の生活になじみ、風土・習慣の違いを楽しんでくれているようです。本学からは実務訓練生としてベネズエラの沿岸にあるクラサオ島の石油精製所に毎年、1、2名の学生が派遣されています。

クラサオ島はカリブ海に浮かぶ宝石のような島で、美しいビーチと温暖な気候とともに世界遺産にも登録されたかわいい町並みが特徴です。リゾート地として大勢の観光客が訪れます。学生たちは石油精製所で英会話やテクニカルライティング、プレゼンテーションの指導を受けながらデータベースプログラミングや事故レポート作成などの仕事を行っています。



研究室の学生たち(右から二人目、三人目の学生がシモン・ボリバル大学からの留学生:エドワルド君、ロゼリアさん)



クラサオ島にて(左:実務訓練生・近藤君、右:石油精製所での指導者・ミラバル氏)

長岡での生活

学部 1年 石 賀 博 之
(米子工業高校出身)

地元鳥取から長岡へ来てすでに一ヶ月経ちました。私は寮で生活していますが、初め寮の部屋を見て狭さにびっくりしました。ここで本当に暮らしていけるのかという心配でいっぱいでした。しかし、様々な家具を買う事で少しは華やかになりました。最近は朝食と夕食は同じ寮生の友達と一緒に作って食べています。毎日何を作ろうかと考えるのも大学生活の楽しみの一つになりました。中には煮物やハンバーグ等の手間の掛かる料理を作る人もいて、とても尊敬しています。その他の大学生活の楽しみはサークルです。私は現在5つのサークルに入っています。どれも良い先輩方なので授業の事、生活の事等多くの話聞く事が出来、とても参考になります。

私は複数入っているサークルの中でも特にサッカー部に力を入れています。ほぼ毎日練習があるのでとても活発なサークルだと思います。自分もこの技大サッ



仲間達と(筆者は左から2番目)

カー部で戦力になれる様頑張りたいです。

5月になった今でもまだなお授業のシステムをしっかり把握出来ていません。授業の内容は聞いた事のない事柄も多く、少しあせっています。しかし自分自身の将来の夢のため積極的に取り組んでいきたいです。

今後の目標としては、私はボランティア関係の活動を体験したいので、学生支援センターへたまに顔を出し、ボランティア募集をしていないか確かめ、参加したいです。

はじめまして、長岡♪

学部 材料開発工学課程 3年 小 西 美有紀
(新居浜高専出身)

一人暮らしが始まりました。今まで親にしてもらっていたことも、大学の勉強もしなければならぬので忙しい毎日を送っています。しかし勉強と部活をして充実した日々を送っています。

私は愛媛県から来たので長岡はとにかく寒いです。でも雪が珍しいので塊があればうれしくて一人で遊んでいる時がありました。入学式のときに桜がつぼみだったのを見て、まだ春じゃないな～、いつ春が来るだろう!?と思っていました。花が咲き始めると急に温くなり、外部の人までが学校の中で花見をすることにとても驚きました。

講義は他学科からきたこともあり、わからないことがあります。そんな時にはわかりやすく教えてくれる友達がいます。実験でも初めてすることばかりで、器具の操作方法がわからない時には早めの実験室に行ってお教えてくれたり、行きたい店がどこにあるかがわ



自室にて

からなければ教えてくれたりする友達もいます。友達になる人は本当に親切で楽しい人ばかりでうれしいです。これから先も迷惑をかけることが多くあると思いますが、先生方、友達みんな、卒業までよろしくお願いしますm(__)m。卒業しても連絡を取り合うような、一生付き合えるような友達になりたいと思っています。

大学を卒業してこの地を離れてもまた長岡で暮らしたいと思えるような...、長岡で過ごす年月を有意義なものに、これからしていきたいです

NEW LIFE

長岡での生活

大学院修士課程
機械創造工学専攻 1年 宇海洋平
(東京理科大学出身)

まだ雪解け前の3月から長岡にやってきました。雪国での生活は初めてで、最初は生活に戸惑いましたが、生活にも慣れ週末には散歩するなど余裕が出てきました。特に大学近くの歩道の並木がお気に入り、のどかな風景を背景に桜を見ながらゆっくりするのは非常に心地よいものです。

研究室では、ようやく念願のレスキューロボットの研究を行っている研究室に入ることができたのですが、予備知識もなく、今はひたすら勉強です。今までやってきた車の研究に関する知識を生かすことができず、勝手の違う設計に難儀していますが、ようやく自分のやりたいこととやらなくてはいけないことが分かってきました。この分野はまだまだ発展途中の分野であり、やらなければならないこともたくさんあり、開拓者の1人として、非常にやりがいの大きさを感じて研究活動を行っています。その他



研究室にて

にも、留学生が多いことや英語で授業が行われる等、英会話でのコミュニケーションに四苦八苦しています。ですが、社会に出ると、海外エンジニアとのコミュニケーションは必須であるので、今のうちにしっかり苦労して勉強していききたいと思います。

研究・生活両面で充実した生活を送る条件が豊富なこの環境で全力でやると共に、ときにはのんびり休憩を取って、メリハリのある生活をしたいと思います。近い将来エンジニアの卵として社会にでるために、長岡技大でしっかりした土台を築き上げたいと思います。

はじめまして長岡

大学院博士後期課程
材料工学専攻 3年 ファン チュン ニア
(ヴェトナム)

みなさんはじめまして。私はヴェトナムから来たPhan Trung Nghiaと申します。今年の4月に、COEグリーンチームのメンバーとして、材料工学専攻3年に入学しました。

いままでいろいろな外国に行ったことがあり、日本に来るのも2回目ですが、長岡は初めてなので期待と不安でいっぱいです。

私は、日本人の親切さにいつも感動しています。特に、同じ研究室の皆さんは熱心に指導してくださるので、本当に感謝しています。長岡技術科学大学はこのようないい雰囲気大学ですので、研究や勉強できるといい成果が出ると思います。

それから、長岡の町についてですが、とても過ごしやすい所だと思います。この時期のヴェトナムは、場所によっては気温が40℃まであがることがあるので、涼しい長岡の気候に感謝しています。冬にはたくさ



師との邂逅～国際シンポジウムで（筆者は左）

んの雪が降ると聞いていますので、少し不安はありますが、楽しみです。

私の日本語はまだまだ未熟なので、日本の文化や日本人についてもっともっと深く理解できるように、がんばって勉強していききたいと思います。研究ももちろんがんばります。

これから3年間、よろしくお願いします。



「理論と 実践を大切に」

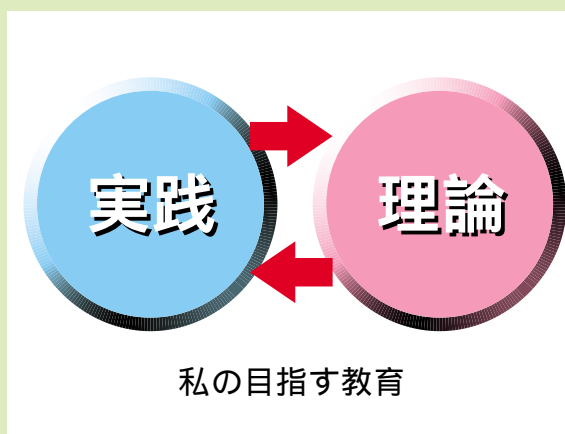
平山 征夫
(経営情報系 特任教授)

私は本年4月より長岡技大の特任教授になりました。特任教授というのは、新しい制度ですし、本学で私が初めてということで、私自身どういう役割を果たすべきか試行しながらやっているところですが、理論と実践の橋渡しの役目を果たしたいと考えています。

私の社会人としての経歴は、日本銀行に25年、新潟県知事12年ということで、ひとつの専門分野を持って研究してきたわけではありません。その私が大学で若い人たちに何を教えるかといえは、経済、行政でのこれまでの経験とその経験から得た教訓を伝えることだと思っています。それは、言い換えれば理論と実践の間をつなぐことです。

長岡技大の特徴は、教員に民間企業出身の方が数多くおられ、実践的な教育をされていることだと思います。来年度からは、「地域政策論」とい

う講座を持つ予定ですが、今年度はいろいろな科目のなかの一部で、実践経験やその問題点などを講義していくこととしています。知事になりたいと思っている人も含めて、私がこれまで培った経験を活かし、学生の皆さんが、より実践的な理論を深めることができる授業をしたいと思っています。ず。奮って受講ください。



「命がけの テーマを探す!」

山田 昇
(機械系 助教授)

私はこの4月より縁あって長岡技術科学大学機械系に転任して参りました。

昨年度まで10年以上にわたり某国立大の研究室の中で、閉じこもりがちに過ごして来ましたが、急に世界が拓けて正直戸惑っております。

私がこれまでに関わった研究テーマは、都市熱環境、太陽エネルギー・放射冷却などの自然エネルギー利用、エネルギー貯蔵、電気自動車、エコランカーの製作とレース参戦など多岐にわたりますが、いずれも深くつっこんだものではなく、「君の専門は何だ?!」という問いに対して、「私は・・・では誰にも負けません!」と言えるものが残念ながら現在の私にはありません。このような私を寛大に迎えていただいた本学に深く感謝しております。

その恩に報いるためにも、これまでの経験を活かして、自分の命を賭しても惜しくないテーマを

見つけたいと思います。また、教育にも命がけの気概が必要でしょう。そしてそのようなテーマや気概には、いろいろな人々や事物との交流・経験を通じて辿りつくものと確信します。

皆様どうか今後ともよろしくお願いいたします。



これからの科学技術のヒントは『自然界に学ぶ』かもしれません。キョクアジサシは、北極圏から南極圏まで最も長距離を渡る鳥です。その姿やメカニズムには全く無駄がありません。(それに比べて人類の創造物はどうでしょう・・・・・・??)



「有志者事竟成」

古川 清
(生物系 教授)

30数年前に大きな志を抱いて、長岡の地を離れました。大学、大学院を経て夢はアメリカに馳せ、この国で研究を究めようと思いましたが、しかし子供たちの教育問題や係累に絆されて、7年後には東京に戻ってきました。東京で大学や東京都の研究所で過ごす中、通勤に費やす時間の多さと煩わしさから、より豊かな生活を求めて長岡技術科学大学に応募しました。思いもよらず帰郷することになり、新たな冒険が始まりました。電子メールの発達した世の中、どこでも研究はできるものと乗り込んできましたが、現実には数歩出て用が足りる東京とは異なり、丘の上の大学にやさかとまどっております。生物棟の6階から眺める景色は、大学院を修了しポストドクで行ったペンシルバニア州立大学医学部癌研究棟の5階からの景色といつしか重なり合い、当時の意欲を再び漲らせてく

れます。

環境が変化すればそれに順応するように私達の体は変化しますが、脳の思考プロセスにも多大な影響を与えます。再び志をもつならば何事か成し遂げられんと思ひ、ここ工学部という私にとっては新たなバックグラウンドで、研究と教育に邁進してみたいと思います。



私が行っている「糖鎖」の研究イラスト



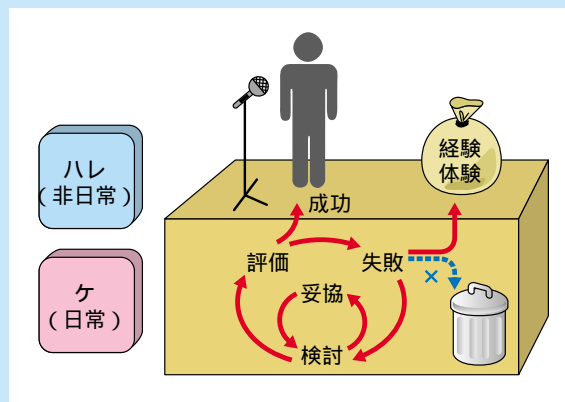
「飛躍の源」

五島 洋行
(経営情報系 助教授)

本年4月の着任前まで、首都圏の民間シンクタンクにて主に経営コンサルティングに携わっておりました。経営コンサルタントというと、大企業の全社的な戦略を、役員会議の場で華々しくプレゼンするような人を想像する方も多いかと思います。確かにそのような一面もあるのですが、そこに至るまでには多くの人間臭い、地道な検討プロセスが存在します。個人的な経験で言えば、営業マンと一緒に製品を売り歩いたり、-30の冷凍庫で商品整理をしたり、倉庫の棚卸中に脚立から転げ落ちたり...そのような現場を実際に体験しながら、その会社の問題点や課題を見つけ、解決方法や飛躍のためのヒントを一緒に考えていくのです。

大学での研究についても同じようなことが言えると思います。学会での発表や論文の掲載は、確かに大きな一つの区切り・ハレの舞台ですが、そ

こにこぎつけるまでには多くの検討プロセスが必要になります。時には大きな失敗や、妥協をせざるを得ない状況に遭遇するかもしれません。しかし、成功・飛躍の裏には多くの失敗や妥協、そして経験が必要です。皆さんも在学中は、人間臭い事にどんどんチャレンジしてみてください。微力ながら、皆さんの飛躍のお手伝いできればと考えております。



失敗を自分の財産にして、いざ、ハレの舞台へ！



「未来へ向けて！」

新 原 皓 一
(極限エネルギー密度工学
研究センター 教授)

大阪大学での研究教育活動を「材料研究フロンティア-大阪，仙台，横須賀，大阪，そして未来へ-」と題する最終講義で終え，4月2日付けで本校に赴任し，極限エネルギー密度工学研究センターで働いています。

先端的な構造・機能を持つ材料の創成が，新しい科学技術を生み，新しい文化・文明をもたらすと信じ，35年以上にわたり材料開発に取り組んできました。挑戦した材料は，蛍光体材料，超強力磁石材料，水素吸蔵合金，熱電子放出材料，高速CVD法による膜材料，ファインセラミックス材料，ナノ及びナノコンポジット材料，高次機能調和材，分子・格子レベルの複合材料等です。長岡技大では，これまでの材料研究の締めを行いながら，可能な限り階層を越えて多くの研究者と接触して未来へ

向けた新しい材料研究の芽を長岡技大に育てる支援をすること，そして今までに培った種々のシーズの産業界への技術移転を加速することに関して活躍できればと考えています。また，このような活動に際して，従来のInvention（発明・発見）とInnovation（技術革新）にIntuition（ひらめき，展開力，目利き）を加え，即ち，3Iコンセプトを基礎にして研究開発と産業化，そして人材育成に取り組みたいと考えています。ご支援を！



図 無機-有機ナノハイブリッド化による感触ナノセンサのミクロ及びナノ構造（左）とインテリジェントロボットへの応用。このセンサは，電子ピアノ鍵盤，ゲーム機コントローラ，水圧センサ，健康機器圧力センサ，衣服の着圧センサ，パソコンの入力ペン等にも応用展開されています。

課 外 活 動

春季球技大会(5/21)・合同運動会(6/11)開催

クラブ連絡会会長・学部 機械創造工学課程3年
三 富 圭 輔（日本文理高校出身）

春季球技大会

春季球技大会はフットサルを行いました。

昨年の地震の影響で野球場が使用できず，今回は体育館でフットサルのみの競技を行いました。

試合は参加した12チーム（1チーム5人）によるトーナメントを行いました。決勝では一試合目こそ危なかったものの，後の試合を順調に勝ち上がっていったおこめ屋チームと，ほぼ得点されずに勝ち上がっていったキャロットチームの戦いとなり，おこめ屋チームが見事に逆転で優勝を飾りました。



球技大会「フットサル」

合同運動会

合同運動会は，技大と長岡看護福祉専門学校がお互いの親睦を図るために開催しているもので，今年で6回目となります。

今回の参加者は約300人で，赤，白，黄，青の4つの団に分かれて競い合いました。交流を深めやすいよう，競技は男女混合のものを多くしたことにより各競技とも盛り上がり，参加者は競技や，応援を通して更に交流を深めることができました。優勝は赤団でした。



合同運動会「つな引き」



合同運動会「タイヤ取り」

私の就職活動

私が就職活動を始めたのは2月くらいでした。私の場合、志望企業をかなり絞っていたため実際に会社を訪問したのは4月になってからですが、早いに越したことはないと思います。

当たり前のことですが、就職活動の基本は事前の準備だと思います。入社試験はSPIや面接が主です。私はSPIが不慣れだったため、隣で受験されていた方の回答スピードに驚かされたことがあります。幸い内定を頂くことができましたが、SPIなどは練習しておくのがよいと思います。

面接はとにかく落ち着くことが大事です。私が現在勤務する会社の役員面接の時、正面に座っていたのは社長でした。社長がいるとは聞いていなかったのでもっと焦りました。面接官は過去に何人もの人間の面接を行っていますから、こちらの動揺など簡単に見抜いてしまうと思います。また研究内容は、いかに相手に分かってもらうかが重要です。要点

勤務先：新潟富士ゼロックス製造株式会社

安島 初穂

(平成17年3月 材料開発工学専攻修了)

を絞れていなかったり、面白味に欠けていると、初めは話を聞いていた面接官も途中で飽きてしまいます。

就職活動ができるのは限られた期間です。入社前後のギャップに驚くというようなことがないように、事前に入念な調査をして就職活動に臨んで下さい。



会社にて同期と（筆者は左）

就職活動中のみなさんへ

みなさん、こんにちは！新社会人になって1ヶ月が過ぎました。まだ研修中で社会人になった実感が湧かないのが正直なところです。そんな私ですが、就職活動中の皆さんにいくつか助言をしたいと思います。

私が就職活動中に考えていたことは、第一に自分に対して正直であることです。面接する方々はプロですから、たった10分程度の面接でも人物を判断できる力を持っていると思います。ありのままの自分を正直に表現することが大事だと思います。また何事もポジティブに考えたほうが良いと思います。もし、希望の会社に落ちたとしても、自分の能力・性格に会社のほうがあわなかったと考えたほうが良いと思います。そして、最後にチャンスはどこにあるかわからないということです。私は当初、同業種の他社を志望していましたが、先生の推薦により今の会社を受けることになりました。合格する自信は全くなかった

勤務先：大成建設株式会社

平川 信之

(平成17年3月 建設工学専攻修了)

のですが、受けてみればいつのまにか決まっていたいました。就職活動は人生の一つの大きな節目となりますが、みなさん気楽に落ち着いて将来の設計をしてください。みなさんには無限の可能性ががあります。

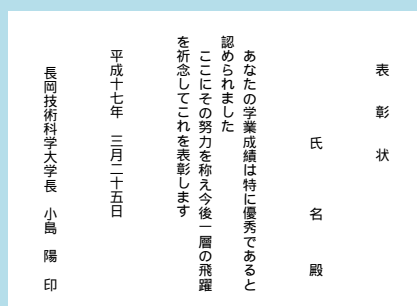


最近の建設会社はこんな感じです：筆者は右から2番目

学生表彰

平成17年3月25日、卒業・修了式において「学生表彰」が行われました。これは、学業・研究活動において、特に顕著な業績を挙げたと認められる者などを表彰するため、昨年度創設した制度で、第一回目となる今回は、学部・大学院で合計18名の学生が表彰され、小島学長より、賞状が手渡されました。

表彰を受けた学生の1人は、「大変に名誉なことです。今後の研究活動の励みになります。」と話してくれました。



平成17年3月学生表彰者一覧

学部課程各課程で優秀な成績を修めた者

課 程	氏 名 (フリガナ)	性別	出身高専等
機械創造工学課程	小野寺洋輔 (オノデラ ヨウスケ)	男	一関工業高等専門学校
電気電子情報工学課程	中野 泰孝 (ナカノ ヤスカ)	男	長岡工業高等専門学校
材料開発工学課程	遠藤 裕介 (エントウ ユウスケ)	男	宮城工業高等専門学校
建設工学課程	近藤 智人 (コトウ トモヒト)	男	東京都立青山高等学校
環境システム工学課程	宮本 学 (ミヤモト マナブ)	男	詫間電波工業高等専門学校
生物機能工学課程	皆川 明穂 (ミカワ アキホ)	女	新潟県立三条高等学校
経営情報工学課程	熊谷 大樹 (クマガイ ダイスケ)	男	一関工業高等専門学校

修士課程各専攻で優秀な成績を修めた者

専 攻	氏 名 (フリガナ)	性別	出身高専等
機械システム工学専攻	松倉 正直 (マツクラ マサオ)	男	旭川工業高等専門学校
創造設計工学専攻	倉光 正夫 (クラミツ マサオ)	男	北九州工業高等専門学校
電気・電子システム工学専攻	倉持 和佳 (クラモチ カズヨシ)	男	職業能力開発総合大学校
電子機器工学専攻	新山 雄俊 (ニヤマ ユウシュン)	男	八戸工業高等専門学校
材料開発工学専攻	山本 佳奈 (ヤマモト カナ)	女	高知工業高等専門学校
建設工学専攻	柄沢 篤志 (カザサ アツシ)	男	長野工業高等専門学校
環境システム工学専攻	秦 誠 (ハタ マコト)	男	新居浜工業高等専門学校
生物機能工学専攻	中村 成芳 (ナカムラ シゲヨシ)	男	志学館高校 (千葉県)

博士後期課程で優秀な成績を修めた者

専 攻	氏 名 (フリガナ)	性別	出身高専等	
材料工学専攻5年	湊 賢一 (ミト ケイイチ)	男	函館工業高等専門学校	論文
材料工学専攻5年	吉田 雄 (ヨシダ ユウ)	男	小山工業高等専門学校	論文
エネルギー・環境工学専攻4年	ソムサワッス・タンパタラタナウォン (タイ出身)	男	9月入学 King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	論文

以上18名

学生生活実態調査

「長岡技術科学大学学生生活白書」を発行

学生委員会委員長
理事・副学長 西澤良之

学生生活の実態を把握するため、第5回学生生活実態調査を昨年7月に実施しました。

この学生生活実態調査は、昭和53年4月の最初の学生受入から間もない昭和54年に学生の生活状況についてアンケートを行って以来概ね5年間ごとに実施しています。

国立大学の法人化によって、大学の行う教育・研究活動などに関する情報公開とその説明責任が強く求められるようになってきました。本学の設置の目的は、実践的、想像的能力を備えた指導的技術者の養成にあります。この使命を果すうえで、本学キャンパスで勉学生活を送っている学生諸君の生活の実態を把握するとともに、その様子をより多くの方々に理解していただくことが大変重要になってきています。

今回の調査は、学生が抱える問題点や改善すべき事柄の分析を行い、今後の改善策の検討と実施に際して、大学として積極的に取り組むべき事項等を明らかにすることを目的として行われました。

今回の調査対象学生数は、学部と大学院（修士課程）に在籍する2,057人。回収された調査票は対象学生数の57%にあたる1,164票。回収率が最も高かったのは、学部1年と大学院1年の66%、次いで大学院2年の57%となっています。

質問は、入学や進学、生活環境や就職など多岐にわたり、調査については、学生委員会委員で構成する平成16年度学生生活実態調査専門部会が実施しました。



AED（自動体外式除細動器）を導入

本学では、心臓が突然止まってしまった人の心臓に電気ショックを与えて、心機能の回復を図る「AED（自動体外式除細動器）」を導入しました。

これまで、AEDの使用は特定の医療従事者にのみ認められていましたが、昨年の7月以降、救急の現場に居合わせた一般市民でも取扱いが可能となりました。

学内の設置場所は、食堂前ホール 体育・保健センター エネルギーセンター 事務局総務課内の4箇所に各1台です。

AED導入に伴う使用講習の受講者は、教職員40名程度ですが、今後も随時、同講習会を実施し、学生、教職員が誰でもAEDを使用できるようにしていく予定です。

（総務課 労務・職員係）



食堂前ホール



お知らせ

OPEN CAMPUS

2005

オープンキャンパス開催

今年も、本学や工学分野に興味のある方々を対象に、オープンキャンパスを行います。

この機会に、研究内容を聞いたり、公開研究室を見学して工学のおもしろさを体験してください。

日 時 平成17年7月31日 10時～15時30分

場 所 長岡技術科学大学キャンパス

交 通 長岡駅よりバス30分・無料送迎バスあり

内 容 工学分野の説明、進路相談、学生生活相談、履修相談、公開研究室見学、模擬講義

お問い合わせ 〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1
長岡技術科学大学 入試課入学試験第2係
Tel:0258-47-9258 Fax:0258-47-9070
E-mail:nkoho@jcom.nagaokaut.ac.jp



上 下 昨年度のオープンキャンパスの様子

父 母 懇 談 会

学部学生のご父母の皆様には先にご案内したように、学部学生の父母等を対象に、下記のとおり「平成17年度父母懇談会」を開催いたします。これは、本学が開学以来初めて実施するものです。

懇談会では、本学の近況報告、個別面談、研究室公開等を行い、父母の方々のご意見、ご要望をお聞きするなど、本学に対する理解を更に深めていただくこととしています。

また、同日は高校生、高専生の本学入学志望者を対象とした「オープンキャンパス」も開催中ですので、学内にはぎやかな一日となりそうです。

開催日時 平成17年7月31日 10時30分～15時30分

会 場 本学マルチメディアシステムセンター

シリーズ「にいがたみである記」は今号はお休みします。



編集後記

本号は平成17年度の最初の号です。VOSは本号からオールカラー印刷になり、よりいっそう見やすく、読みやすくなりました。本年度初めということで、新入学生の長岡での生活や新任の先生のこれからの抱負を書いていただきました。また、特集として「日本からの情報発信」を取り上げました。今後も読みやすくわかりやすいVOSにしていきたいと思いますので忌憚のないご意見をお寄せください。（編集委員）

VOS128号（平成17年6月）
編集発行／長岡技術科学大学広報委員会（総務部 総務課）
＊本誌に対するご意見等は下記までお寄せください。
〒940-2188 長岡市上富岡町1603-1
Tel.0258-47-9209 Fax.0258-47-9000
E-mail skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp
U R L : <http://www.nagaokaut.ac.jp/>

VOSの由来

本学のモットーである Vitality Originality , Services の頭文字をとって 本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。

